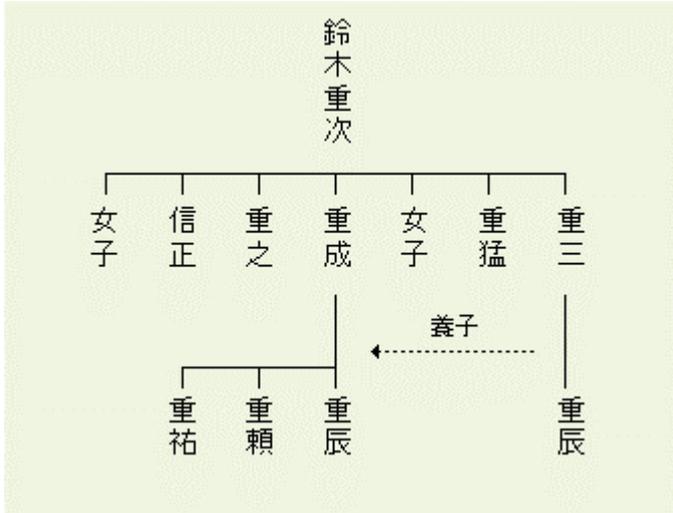


1. 鈴木重成公家系図



2. 天草の戦後復興計画

移民を誘致する。

一揆犠牲者を供養する。

町村を再編する

島内を 10 組 86 ヶ村に。その村々をにたばねる。組には大庄屋、村に庄屋・年寄り・百姓代を置いて行政のしくみを整備し、情報の流れを改善。海浜有事に備え遠見番所を設置。

医療と衛生の普及を図る。

定浦制を定め、漁民の地位保全を図る。

神社を復旧し、あまたの寺院を建てる。

公共投資による地域浮場意味合いも。

キリシタン対策

説得と絵踏み。兄・正三公は『破切支丹』を書いて、寺々へ。

「重成公が取り組んだものは、病の克服、貧困の克服、心の迷いの克服であり...」(寺沢光世)

3. 天草の石高半減

「承応 2 年 10 月 15 日、重成公天草の石高半減を訴えて自刃。幕府これを哀れみ病気の体にとりなし、二代目代官重辰公もよく先代の遺志実現に挺身したため、万治 2 年 6 月、幕府は父子二代にわたる代官の熱誠を汲んで天草の石高を 21,000 石と改め告知した。」

石高 / 年貢

4

鈴木精神：「義を貫き、全力を尽くして、世の為、人の為に奉仕する愛の心」

三公の一体的評価

兄の鈴木正三(しょうさん)は、独創的な仏教思想家 - 「世法即仏法」という考え方の先覚性。日本初、職業倫理の記述。禅浄双修の実践。

子の重辰(しげとき)は、有能な行政官。天草の「石高半減」を实践。京都代官。

5

死の3ヶ月後に建った鈴木重成公供養碑(富岡)

一町田八幡宮の石灯籠

「八幡宮...祈願者 當奉職 / 鈴木重成公病即消滅福寿増長武運長久子孫繁昌祈所」

塚本政直の書き入れ

「蓋し其の議を達するに身命を以てし...」

古来、神になった人とは？

江戸時代、武士の「病死」は表紙に非ずという「常識」、そして...